

平成26年深谷市教育委員会第2回臨時会会議録

深谷市教育委員会

平成26年深谷市教育委員会第2回臨時会

日 時 平成26年7月24日(木)
開 会 午後 2時00分
閉 会 午後 3時30分

場 所 教育委員会 3階 大会議室

出席委員 委 員 長 西 倉 郁 夫
委員長職務代理者 柿 沼 敬 一
委 員 井 上 美佐子
委 員 清 水 巖
教 育 長 小 柳 光 春

出席職員 教 育 部 長 澤 出 晃 越
次 長 植 竹 敏 夫
次 長 片 桐 雅 之
教 育 総 務 課 長 葦 塚 洋 明
教 育 施 設 課 長 吉 田 稔
学 校 教 育 課 長 白 井 裕 一
生 涯 学 習 課 長 岡 田 真 樹
文 化 振 興 課 長 補 佐 宮 本 直 樹
図 書 館 長 栗 田 理 一

書 記 教 育 総 務 課 石 川 雅 一
課 長 補 佐

- 1 開会
委員長が開会を宣告
- 2 前回議事録の承認
第7回定例会の会議録を全員異議なく承認。
- 3 会議録署名委員の指名
委員長が井上委員（3号委員）及び清水委員（4号委員）を指名。
- 4 会議の概要
(1) 会議
① 議案第34号 平成27年度使用小学校用教科用図書の採択について【一部非公開】
学校教育課長より説明

発言の要旨

- ① 議案第34号 平成27年度使用小学校用教科用図書の採択について【一部非公開】
- 委員長 議案第34号「平成27年度使用小学校用教科用図書の採択について」であります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書き、及び深谷市教育委員会会議規則第11条第1項第5号の規定により説明、質疑は公開とし、討論、採決のみ非公開とすることによろしいでしょうか。
- (全員賛成)
- 議案第34号は、公開での説明、質疑の終了後、討論、採決の部分を非公開とします。

- 委員長 議事を進めます。
- 本議案については、まず、教科用図書の採択の仕組みについて説明を求めた後、質疑を受けることとします。
- その後、教科用図書の種目ごとに説明を求め、各種目ごとに質疑を受けることといたします。
- 全種目について説明及び質疑が終了した後、会議を非公開とし、各種目ごとに討論を行い、その後、本議案について採決を行います。

- 学校教育課長 (別紙資料の概要を説明)
- 委員長 採択の仕組みについて質疑はありませんか。
- (質疑なし)

- 委員長 質疑なしと認め、各種目について説明を求めます。

- 学校教育課長 初めに、国語の教科用図書について、説明を求めます。
- 国語の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、4ページの教育出版がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、まず、「話すこと・聞くこと」の単元が充実している点です。例えば、意見交換会の様子が写真で示されており、児童にとって話し合い活動の隊形がイメージしやすくなっています。写真で示されているのは、教育出版だけです。

また、「意見交換会の流れ」や「意見交換カード」が詳しく取り上げられており、具体的で授業にも生かしやすくなっています。また、教育出版は、めあてと振り返りがしっかりと書かれているということです。

さらに、言語活動を重視し、話し合うことについてのポイントが詳しく示してあるので、学びやすくなっています。

こうした学習のための配慮が、他社より充実しているところ

- 委員長 国語の教科用図書について、質疑はありませんか。

- 教育 国語については、三領域あります。そのなかで、「読むこ

と」については、大体似たような文学教材が出てくるわけですが、例えば、「大造じいさんとガン」を使って、どこがどう違うか、顕著な部分がありますか。

学校教育課長 それでは、「大造じいさんとガン」ですが、教育出版の小学校国語5年生の上の90ページをご覧ください。

まず、行間に余裕があり読みやすくなっています。そしてページをめくっていただきますと挿絵があります。この挿絵の数は、教育出版が一番少ないです。挿絵の数が配慮されていることにより、挿絵のイメージに囚われず、文章を読んで自分でイメージを持ち、その自分で見つけたイメージを基に話し合い活動をしたりできます。

また、それぞれの挿絵は、個々の場面を表す効果的な挿絵となっていますので、その挿絵によって場面の振り返りが出来るように細かな配慮がなされており、教育出版の特徴となっています。

教 育 長 文学教材を通して心情を豊かにするという視点で見たときに、挿絵が効果的に使われているのが教育出版で、挿絵の数が少なく、叙述に即して子どもの心情を深めることができるということですか。

片 桐 次 長 教育出版の90ページの「大造じいさんとガン」ですが、最後のところに、学習の手引きというものがございます。そちらをご覧くださいと、国語については、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」という領域がございますが、すべての領域において総合的に学習できる流れが教育出版の手引きにあるかと思います。他の教科書でも「大造じいさんとガン」が取り上げられていますが、さきほどの「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の三領域を総合的に手引きとして扱っているところはございませんでしたので、学習する上においても、教育出版の教科書が子ども達にとって適していると考えられます。

井 上 委 員 この教育出版の、例えば「大造じいさんとガン」をそこからさらに活用し、コミュニケーションを発展させるには、どうすればよいと考えていますか。

学校教育課長 教科書の106ページ以降が学習の手引きとなっています。そして、この流れとしましては、読むことで読み味わい、そして107ページで意見交換を行い、108ページでは「2 自分が山場と考えたところを大造じいさんの立場で書き換えましょう」という課題が載せられています。このように、読み味わい、自分で書いて表現する、そのような発展的な学習というのも手引きとして表れているのが教育出版の特徴です。

委 員 長 次に、書写の教科用図書について、説明を求めます。

学校教育課長

書写の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、11ページの教育出版がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、子どもが主体的に学習できる構成になっており、指導もしやすいものになっています。

具体的には、説明の写真や資料が多く、子どもにとって、親しみやすいものとなっています。

さらに、なんと言っても、書写で大切なのは、字形です。教育出版は大変整っており美しいものです。特に、硬筆の字形も、子どものお手本として適していると判断します。

委員長
教育長
学校教育課長

書写の教科用図書について、質疑はありませんか。

同じような字で比較できる場所はありますか。

教育出版の書写5年生の8、9ページをご覧ください。こちらの「道」ですが、左のように朱書きで穂先などの筆跡や書き順などが非常に丁寧に載っています。他の教科書でも同じようなものはありますが、全ての書き順が載っているのは教育出版だけです。そして、筆の使い方について、写真で入れ方を分かりやすく説明しているのが、教育出版の特徴です。

委員長
学校教育課長

次に、社会の教科用図書について、説明を求めます。

社会の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、16ページの東京書籍がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、問題解決的な学習の観点である「つかむー調べるーまとめるーいかす、広げる、深める」といった学習過程の明示が一番はっきりしているのが東京書籍だと判断しました。

また、20ページから22ページの下の項目別資料数でも分かりますが、資料の多さで、多様な資料、写真、年表等、一番多かったのが東京書籍であり、授業での、様々な活用方法が考えられます。

さらに、調べ方、学び方について、「見る、聞く、触れるための学び方」「読み取るための学び方」「表す・伝えるという側面からの学び方」等、多種多様な学び方を各観点から分けて、提示しているのが大きな特徴でございます。

委員長
井上委員

社会の教科用図書について、質疑はありませんか。

領土問題に関する記述は、4社でどのようにされていましたか。東京書籍では、地図や写真資料を提示しながら日本と近隣の関係を紹介しています。教育出版の方では、我が国の国旗と固有の領土について書いてあります。それから光村と、日文にもありますが、検討した結果、どんな風に受け取られましたか。

学校教育課長　　まず、東京書籍に関するものです。日本の領土問題という事に焦点を当てたところというのはあまりないのですが、国土の広さですとか、様々な国土の特徴、例えば、5年生の上の12ページを見てください。我が国の領土の特徴として、山がちなところ、海岸線の部分、そして平野の部分、島が非常に多いところ、様々な特徴があります。まず、国土の特徴をしっかりと捉えさせ、様々なこういった地形だとかで切り込んでいるのは、この東京書籍のみです。まずは国土・領土の特徴、そしてその後に、例えば寒暖の差というところをテーマにして扱う部分というふうにして、日本の領土を多面的な部分から比較しています。例えば、38ページですけど、こちらは同じ3月でも、流氷の北海道、そして海開きをしている沖縄といった寒暖の差のある様々な日本の領土とその魅力が記載されています。そして、また、後で説明させていただきますけど、今課題となっている領土問題に関しましては、地図の方でも併用して授業で扱えるようになっています。

井上委員　　領土問題の扱い方は各社で違っていると思いますが、教員は選定された教科書を使って授業をすることになりますから、選定にあたってどのように決定したかという基準を教えてください。例えば、東京書籍の8ページ、それから日本文教の8ページに、同じような形で出ていますよね。

学校教育課長　　今日的な領土問題に詳しく切り込んでいるのは東京書籍だと判断しました。その内容は、北方領土、竹島、そして尖閣諸島の記述があります。そのような領土問題として日本の立場というものを理解するという事も重要と考えられていますので、そういった面でも東京書籍が、これらの中では一番詳しく記述されているものと考えられます。

教育長　　領土については、いろいろ国の方の指導もあって、新しく修正を加えたりしているので、それほど遜色がないような感じがします。あとは領土というか国土の学び方で、さっき課長が申したのは、地理的な学びをやる時に、大きい視点と具体的な視点で分けて、学びの中で違いますが、うまくそれが取り入れられているのが東京書籍です。つまり日本の国土はどのようなっていう大きい単元で最初は聞き、途中から平地の暮らし、町の気候など、そういうような形で、うまくこう視点を変化させ、子どもたちに学ばせるための配慮がなされている感じがします。

井上委員　　子どもたちが見て、一番わかりやすいのは確かに東京書籍だと思います。東京書籍のこの図面が一番わかりやすいし、捉えやすいと思います。選定は、問題ないと思います。

教育長　　あと、やっぱり、今、子どもたちの学びで一番求められるのは、問題解決的な学習です。授業構造を変えようとこの間、1

0年20年やってきてる訳ですけれども、教科書で学び方を学ぶというのをきちんと打ち出しているのは東京書籍なんですね。先程説明があった、掴む・調べる・まとめる・広めるとか、そういった形で、きちんと布石が打ってあって、学習課題をきちんと最初に提示し、どうやって調べ学習をやっていくか、非常に配慮されている。まあ、どの教科書も学び方を学ぶという、問題解決的な学習に配慮されていますけれども、その点は若干東京書籍の方が一歩先を見ているかなという気はいたします。

あと、やっぱり気になるのは、近代日本資本主義の父と呼ばれている渋沢栄一翁と尾高惇忠、蕨塚直次郎等々の扱いが、うちの地区としては少しこう懸念が残るなという気がするのですが、どうですか。

学校教育課長

渋沢栄一翁に関しては、日本文教が一番詳しく記述しています。続いて教育出版でVIP的に扱っています。東京書籍では、確かに栄一翁に関しての記述がありません。ただ、こちらの表紙等に富岡製糸場のものを使われていたりします。こういったところから、産業が勃興していく日本の様子を授業で扱うことができます。それと共に、深谷市が独自で作っている副読本を授業の資料として、渋沢栄一翁の活躍について授業で詳しく触れるようにはなっておりますので、総合的には授業で扱うということにはなっています。東京書籍ではやはり先程委員さんがおっしゃったとおり、学び方という面でも重点を置かれていますので、教科書だけではなく、その発展的な副読本を使った学び方にも触れられるようになってきているところもあります。東京書籍の6年の上、79ページをご覧ください。例えば、このように学び方コーナーというところで、随所に、これからの発展的な学びを紹介していく部分がございます。そうしたところで、いろいろな資料に触れて学べるように授業の方で工夫していきたいと思っております。

委員長
学校教育課長

次に、地図の教科用図書について、説明を求めます。

地図の専門員会では、2社の教科用図書について研究を進めていただき、その中で、24ページの帝国書院がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、「地図帳への親しみ」、さらには「地図指導」、「巻末の資料・統計」という大きな観点から考えました。

「地図帳への親しみ」といった部分では、今回大幅に変わった東京書籍のワイドな地図は入門期の子どもにとって、非常に見やすく使いやすくなっております。

その一方で「地図指導」の側面から見ますと、多面的に見ることができ、学習への関心を高める構成となっております。

さらには、「巻末の資料・統計」の豊富さといった部分で、総合的に判断しますと帝国書院のものがふさわしいと判断されます。

委員 長
教育 長
学校教育課長

地図の教科用図書について、質疑はありませんか。

先程の領土に関しては、どうでしょうか。

それでは、帝国書院の地図ですが、13ページをご覧になってください。まずこちらには、尖閣諸島の様子が写真入りで出ております。また、17ページの方を見ていただきますと竹島の方の記述、そして、18ページには北方領土の記述があります。このように、写真入りで今日的な領土の事について説明しているのはこちらの帝国書院だけです。

学校教育課長

追加で説明をさせていただきます。先程、巻末の資料統計の魅力ということでお伝えしたところですが、70ページをご覧になってください。こちらには、地図の中でも地理の学習だけではなく、各地域の歴史の舞台になった場所、埼玉県ではさきたまの稲荷山古墳群、秩父事件といったところが載っており、全国で歴史の舞台になった所をこのように巻末で紹介しております。こういった、多種多様な学び方を想定して作られているのが、こちらの帝国書院の特徴です。

委員 長
学校教育課長

次に、算数の教科用図書について、説明を求めます。

算数の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、2社、つまり、現在使用している東京書籍と啓林館の2社に絞り、比較しました。

その結果、26ページの東京書籍がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、活動内容を写真で示唆し、一目でわかるようになっています。具体的には、1年生の数字の書き方についても、数字の書き始めの位置を○で示し、矢印で書く方向を示してあります。

他にも2年生の並べ替える操作では、おはじきの色を変えたり、様々な工夫をしたりして、わかりやすい配慮が認められます。段階を追って丁寧に記されているということが評価できます。

東京書籍を使うことによって、基礎的・基本的な力が確実になり、さらに、学習習慣を身につけ、自ら学んでいくことができると判断します。

委員 長
井上 委員

算数の教科用図書について、質疑はありませんか。

基礎、基本、定着の後に、活用し、生活に活かす。その辺りで、今の選定が一番優れていると判断したのでしょうか。

学校教育課長

基礎、基本の確実な定着、そしてそれを活用し、応用問題に発展していくことは大変大事なことでと思います。

まず、活用に関してですが、東京書籍の小学校2年生の112ページをご覧ください。こちらは巻末に載っている補充問題ですが、活用で最終的に今までの基礎、基本が定着されているかどうかを判断する問題です。ここで、この東京書籍の特徴は、三角のア、これはかつて何ページで似ている問題をやっていますよ、というヒントになっています。そして四角の黄色いところは、これもアですけど、これはちょっと難しい問題として紹介されています。

教 育 長

このように、まずは基礎、基本を定着させて、そして自分から少し難しい問題に発展的にチャレンジするような、そのような作りになっているのが、この東京書籍の特徴となっています。いまの絡みですけれども、東京書籍の場合は、単元のそれぞれの導入を見ますと、左側に日常生活の問題を取り上げています。この日常生活の問題を踏まえて、それを算数の学習問題で、右側のページにつないでいく。これは日常の生活の中から算数の学習課題へと導入を図って、右側の算数の学習をすることによって、また日常生活へフィードバックすることができる。この辺が、やっぱり一歩先んじているのかなと思います。これは、他にはなかなか無いですね。

学校教育課長

今、小柳委員がおっしゃったことですが、それがもう一年生から表れているのが特徴的です。一年生の上の2ページをご覧ください。最初、数字は出てきません。この狐と豚と猫とカバとパンダと犬、それと先生がライオンですが、この席に全員座れるのかな、教室の中の座席の数がちょうどぴったり合うのかな、という子ども達の心配が、学習の導入になっています。

そして1ページめくっていただいて4、5ページです。ここでもまだ数字が出てきません。他社ではもうこの辺で数字が出てきます。ここでは、左上のほうで、狸と傘の数をあわせるため、線で狸と傘を結んでいきます。そうすると傘が一本多くなっているのが分かって、ああよかったとなります。日常の数を合わせる必然性というところから入っています。

そして1ページめくっていただきまして、まだ数字は出てきません。ここで出てくるのはおはじきです。黄色いおはじきと白のおはじきで、熊とじょうろを観念的におはじきに置き換えて数を比べています。

そしてやっと8ページで数字がでてきます。おはじきのように並べたその何個というものをこの数字という記号に近い便利なもので置き換えて学習します。日常生活の必然性、必要性から学習の意欲を高めて授業に参加できるように配慮がなされています。

井 上 委 員

一番良いのは、2年生の上にもありますが、マイノートです。子どものノートとして掲載されている算数の書き方が非常

に良いと思います。それがないとノートをどのように取ればよいかわかりません。でもこれで、子どもは、このようにノートを書いてまとめることにより、自分の意見と友達の見解と、そして結果的にこうなった、ということがわかるように配慮されており、良いと思います。

学校教育課長 井上委員のおっしゃるとおり、意見の比較などにより、算数といえども言語活動も学べるように、ポイントポイントにノートの取り方などの配慮があります。

委員長 次に、理科の教科用図書について、説明を求めます。

学校教育課長 理科の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、教育出版、東京書籍、啓林館の3社に絞り、比較しました。

その結果、37ページの教育出版がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、「予想しよう」「計画しよう」の記述により、見通しをもって具体的に話し合う観点が示されており、見出した問題に対して予想や仮説をもたせる工夫がされています。

また、観察・実験における視点がはっきりするような写真や挿絵の工夫がなされており、理科の学習に興味・関心を示すことができます。

さらに、マークやキャラクターの使用により、学習の流れを確かめながら問題解決的な学習が進められるようになっており学習しやすい教科書であると判断します。

委員長 理科の教科用図書について、質疑はありませんか。

井上委員 私も教育出版を見たときに一番使いやすいと思いました。例えば、実験ではヒントを示しながらやっていく手順がよいのと、子ども達に考えさせる場面が多いところです。子ども達は、丁寧すぎても考えないし、大雑把でもできません。方向性として、一番子ども達が使いやすいし、考えやすいものだと思います。さらに、薬品の扱いの説明なども、図表や写真などが示され、実験のやり方が丁寧です。

学校教育課長 井上委員がおっしゃるとおり、実験に非常に力が入っていると感じられます。例えば、実験にあたっては、先程申し上げましたとおり、ただ実験で作業するだけではなく、予想してから実験が始まるようになっています。

例えば、教育出版の理科6年生の16ページですが、瓶のなかでロウソクを燃やす実験です。まず、実験をする前に予想をしようという部分があります。瓶のなかでロウソクを燃やす前後で、空気にどのような違いがあるか、考えて話し合い、自分

で確かめたいことのポイントを絞って実験に臨む、といった配慮がなされています。

また、59ページをご覧ください。こちらでは、計画しようというところですが、このように実験で確かめたい項目があって、それを確かめるには、自分たちでどういう実験をすればいいのか計画しようというものです。

ここでは、葉に日光があたると澱粉が出来るかどうか調べる方法について話し合っています。この子ども達の吹き出しには「澱粉がない状態の葉に日光をあてて、澱粉ができることを調べないといけないね。日光が本当に澱粉を作る素になっているのかな」「前の日に箱を被せて日光を当てなければ、葉には澱粉がないと思う。そうしたことで、日光が澱粉の素になっているんじゃないかな。」とあります。

このように自分たちが立てた仮説を証明するためにどういった段取でやればいいのか大雑把に掴ませてから、実際の実験に入る配慮がなされています。

教 育 長

各社とも資料を工夫していると思いますが、資料を比較するとどうですか。

学校教育課長

こちらの教育出版は、資料の魅力というのが随所に見られます。例えば、非常に地味で目立たないところがございますが、小学校6年生のなかから紹介したいと思います。48ページをご覧ください。鮎の解剖の様子です。これは子どもによっては多少抵抗感のある図かもしれませぬ。ただ、科学への姿勢として、実物をできるだけ示して、それを自分で実感していくということは大事です。こういった鮎の解剖が写真でそのものがしっかり載っているのは教育出版だけです。

ちょっと戻っていただいて45ページをご覧ください。これは人体の様子ですが、見開きになっていて鏡を見ながら、自分で自分の体の様子が見られるようになっています。こうした非常に魅力的な資料の工夫がなされています。

教 育 長

お医者さんの立場からすると、どうですか。

清水 委員

なかなか難しいですね。どこまで理解できるか。けれど、素晴らしいと思います。

片 桐 次 長

今、課長のほうから説明させていただきましたが、理科においては様々な資料があります。理科嫌いな子とかが話題に出たりしますが、教育出版の場合は一番始めの見開きのところに、5年生の場合は、自然に親しむ達人ということで佐々木洋先生の言葉が載っています。最後には、ノーベル化学賞を受賞された田中耕一先生の「発見する楽しさ」が載っています。いわゆる理科という学問に対して夢を与えたり、子どもが理科を学ぶきっかけを与えたりするような導入の工夫をしており、巻末でもそれを捉えています。

同じように、資料についても、先程も鮎のことがありましたが、本物の写真を掲載して、なおかつ普段は見られない消化器の長さを示したりして、できるだけ本物を使って子どもたちにイメージを持ってもらい、正しい知識を学んで、そこから興味関心をもってさらに一歩進めて、というふうに教育出版は考えられています。

植物の種からホウセンカ、ヒマワリを例示した部分においても植物の育ち方を丁寧に追っていますので、非常に分かりやすく、子どもが興味関心を持ちやすい教科書だと考えられます。

井上委員 例えば、3，4年生で、実験用キットを買って、学びや体験がない活動になってしまうことがありますよね。そうではなくて、自分の身近なものから、体験を通じ理科の学習になるような配慮が重要だと思いますが、いかがですか。

学校教育課長 井上委員のおっしゃるとおりです。私もそのように受け止められる部分があります。再度、6年生の146ページをご覧ください。

「あけゆくや二十七夜も三日の月」という、芭蕉の俳句から入ります。これは、芭蕉が夜の月と未明の月を比べて詠んだものです。確かに同じ三日月なのですが、左が、太陽が昇る位置の朝の未明の月、右が、太陽が沈む夕方の月です。地球に届く太陽の光が遮断されないと月が見えませんが、太陽が沈んだ時に地球に光が届かないから月に届いている光が見えるわけです。そうすると沈む方が三日月の光っている部分、そして、太陽が昇るときは、逆の太陽のある方が光っている三日月となります。といったように、同じ三日月でも、天体を想像しなければならぬ分野でございしますが、委員さんがおっしゃったとおり、体験したものから色々な論理的な思考力、判断力、表現力に結び付けられるように構成されています。

委員長 次に、生活の教科用図書について、説明を求めます。

学校教育課長 生活の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、東京書籍と教育出版の2社に絞り、比較しました。

その結果、40ページの東京書籍がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、表情豊かな写真や挿し絵を多用して児童の活動意欲を引き出すよう工夫されています。

また、各見開きページの右上にある「やくそく」や巻末にある「べんりてちょう」などで生活上必要な習慣や技能が身につくような配慮や、指導・支援を支える豊富な資料があります。

さらに、キャラクターが思考のヒントを投げかけたり、単元や活動内容で書体や文字の色や大きさを使い分けたりして、安全上の注意や気付きの質を高める配慮があります。

こうした学習のための配慮が、他社より充実しているところ
です。

委員長
井上委員

生活の教科用図書について、質疑はありませんか。

生活科1年生、2年生で、次の3年生の社会・理科に繋がって
いく訳ですが、そのときにやっぱり見る、聞く、作る、発見、
気づいてやっていくという中で、先ほどの説明以外では、東京
書籍のどの部分が優れていましたか。

学校教育課長

実際に生活は子供達が活動するということから始まります。
そのときに留意しなければならないのが、そのあとの勉強
に繋げるためにも事故を防がなければなりません。例えば、東京
書籍の上の39ページです。公園等に行って、草花や虫を探
そうというこのテーマに沿って、その中で右上の方に約束があ
ります。気をつけるものとして、アシナガバチや、セアカゴケ
グモ、こういった危険なものをまずは認知させます。それから
活動の方に入り、学習の意欲が、その後の社会・理科と繋がっ
ていくような、子供達の自主的な活動を主体としたものになっ
ています。

また、39ページの左下、太陽の形をした「タイチャン」と
いう名前のキャラクターです。草花でどんな遊びができるかな
といった子供達の活動のヒントを出しています。そして、その
前の36ページを見て下さい。これは、公園に遊びに行くとい
うところからなんですけど、先ほど申し上げました気をつける
ものを気づかせる約束は、やはり右上にでています。そして、
その中で今度は左下に水の「ミッチャン」が出てきまして、こ
まめに水を飲もう、日陰で休もうといったことも留意点として
投げかけています。

こうした、子供達が活動をするために、何をして遊ぼうかな
といった魅力的な投げかけと同時に、注意すべきことはないか
なといった危険を自主的に察知するための投げかけがなされて
おり、そうした工夫が東京書籍の特徴になっています。

委員長
学校教育課長

次に、音楽の教科用図書について、説明を求めます。

音楽の専門員会では、2社の教科用図書について研究を進
めていただき、その中で、49ページの教育芸術社がこの地域
の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、3点申し上げます。

1点目は、教材の配列が題材ごとにまとまっており、教材の
中で歌ったり楽器を演奏したりする「表現」、音楽を聴く「鑑

賞」、音楽をつくる「音楽づくり」を学習し、これらの活動を通して題材のねらいに迫るような構成になっているところです。

2点目は、音楽科でのこれからの課題とされている「音楽づくり」について手順が丁寧に示されており、どの子も音楽づくりができるようになっていくところだと思います。

3点目は、イラストの吹き出しを通して、学習のねらいをはっきりさせ、主体的に学習に取り組めるように工夫されています。以上3点から教育芸術社のものが学習しやすい教科書であると判断します。

委員長
井上委員

音楽の教科用図書について、質疑はありませんか。

教育芸術社は、2学年ごとに共通の題材が系統的にまとめられていて、それが前からの特徴だと思います。教育出版の方は、現代的な音楽家がかかり紹介されていますね。教材の配列とかそういうのは教育芸術社の方が、より優れているのは分かっていますけど、教育出版は、今のお子さん達により身近な現代の音楽家や作曲家、様々なジャンルの魅力的な教材が入っているにも関わらず、教育芸術社を選んだ理由として、優れたところをもうちょっと教えてください。

学校教育課長

井上委員ご指摘のとおり、教育芸術社の教科書には、私が知らないだけかもしれませんが、有名でない演奏者の写真が多用されています。それを踏まえての良さですが、例えば、教育芸術社の小学生の音楽の5年生をご覧ください。12ページでございます。「色々な音の響きを味わおう」とあり、これが題材として子供達に味あわせたいところです。音の響きです。最初は、この12ページのリコーダーから入ります。リコーダーの音色を味わって、2部の演奏で楽しみます。

そして、1ページめくっていただいて、14ページは、同じ色々な音の響きを味わうために、今度は歌唱です。楽譜で申し上げて恐縮ですけど、3段目、4段目が2部合唱でハモるようになっていきます。そうすると、声っていうのは、ハモるとこんなに美しい音色なんだな、という音の響きをこれで味わいます。

また、1ページめくっていただいて、今度は合奏です。色々な楽器を一緒に合奏し、又は、パートの重ね方を色々工夫して楽器を試してみます。そして、合わせた楽器で音色が違うんだな、といったところから音の響きを味わいます。

そして18ページは鑑賞です。アイネ・クライネ・ナハトムジーク、こちらはモーツァルトの曲ですけど、この曲を通して弦楽合奏、弦楽器の音の響きの美しさを味わいます。

最後には、先ほど申し上げました今日的な課題の音楽づくりになっています。この中で子供達が、20ページの四角の中の楽器から自分で気に入った楽器を選んで、全体的にどんな響きがあってできるのか色々試します。

この12ページから21ページまでのテーマは、最初の色々な音の響きを味わうということです。こうした合奏、歌唱、鑑賞や音楽づくりが1つの目的に合わせて、構成されており、系統的に音楽科の授業が進められます。そうしたところが、教育出版にはない教育芸術社の良さであり、優れたところだと判断します。

井上委員 国歌の扱いですが、教育芸術社は全部巻末だったと思いますが、教育出版は丁寧にページとして扱っていますよね。その辺の討議はありませんでしたか。

学校教育課長 学習指導要領では、国歌は各学年で指導する音楽ということになっています。1つの歌唱として取り上げている教育出版に対して、教育芸術社は必ず巻末の方に載っているものです。小学校で指導しますと、1年生でも国歌は歌えるようになります。そして、それを各学年でも、もう一度指導するわけですが、巻末の方で指導するということが、授業で扱うには適したものになっています。

井上委員 全体的にみれば、教育芸術社は優れていますが、国歌については教育出版の方が非常に丁寧に扱っています。そのような国歌が何故生まれたかというところまで書いてあるわけですよね。1年生は確かに歌っていますけれども、やっぱり重要な国歌というものが、何故できてきたのか、どういう謂れでできたのかということ、教育芸術社は扱っていません。教育出版は、ちゃんと扱っています。教育芸術社を選定したとしても、そういったことを他の教科書会社からも引用して、理解できる学年において教えていく必要があるのかな、と私は思っています。

委員長 次に、図画工作の教科用図書について、説明を求めます。

学校教育課長 図画工作の専門員会では、2社の教科用図書について研究を進めていただき、その中で、53ページの日本文教出版がこの地域の子どもたちにふさわしいと選定されました。

今回、全ての教科の中で、この図画工作だけが現在使用している教科用図書と異なって選定されております。このことを踏まえた上で、日本文教出版が選定された理由についてご説明いたします。まず、用具の使い方が6ページにわたって、多種多様に取り上げられ子どもの発想を広げるのに適しています。

また、活動する児童の写真や言葉、児童作品を掲載して製作意欲を喚起し、児童が感性を働かせながら、作り出す喜びを味わえるよう工夫されています。

さらに、日本文教出版は、最初にめあてを示しています。開隆堂は、「振り返ってみよう」という形で、後でめあてが記述されています。このように、めあてが先にあり明確であるとい

う点で、日本文教出版の方が子どもたちにとって分かりやすいと言えます。

総合的に判断しますと、日本文教出版が子どもたちにとってふさわしいと判断します。

委員 長
教育 長

図画工作の教科用図書について、質疑はありませんか。

私も、採択協議会で実際によく見ると、日本文教出版は、主体的な学びという点で最初にめあてが示されています。図工というと、どう興味、関心、意欲を引き出すかということがありますので、導入の方にきちんと示した方が主体的な学びになるかと思いました。振り返りも大事ですが、どちらかということ、そちらの方が大事だという気がいたしました。

委員 長
学校教育課長

次に、家庭の教科用図書について、説明を求めます。

家庭の専門員会では、2社の教科用図書について研究を進めていただき、その中で、57ページの開隆堂出版がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、児童が学びやすいように見開きを活用して学習課題、学習内容が配列されていること、資料の写真や図表が見やすく、児童の実態にあっており、興味関心を持って学習に取り組める点です。

また、3ページにわたり「防災」として、家庭科の学習時における災害への対応が示しており、安全指導への配慮が二重、三重になされています。

以上のことから開隆堂出版のものが、学習しやすい教科書であると判断します。

委員 長
学校教育課長

家庭の教科用図書について、質疑はありませんか。

それでは、私の方から何点か、今、申し上げたところを具体的に見ていただけたらと思います。

例えば、開隆堂出版の5、6年の47ページを見てください。ご飯を炊く授業というので、これで見開きを置いておいて、活用しやすく、流れをこのまま学習できるようになっています。そして、この中の1つ1つの写真ですが、例えば、46ページの下に米がご飯になるまでとあります。吸水前の米と吸水した後の米の差が写真でしっかり分かるのが、開隆堂の教科用図書です。写真も非常に見やすく、配慮されていることが確認できます。

一方で先程申し上げました安全に関しての配慮でございますが、同じ開隆堂の5、6年生の9ページから14ページをご覧ください。調理実習ですが、最初に安全性の課題ということが非常に丁寧に説明されています。9ページの、このやかんを五徳の中央に置くですとか、安全のマークに示されているのが全部安全に関することです。11ページも2か所安全に関しての

記述があります。12、13ページも、包丁とまな板と茹でることに関して安全マークがついています。そして、14ページの後片付けにも、安全マークに関する記述が載っています。家庭科での事故について、子ども達が安全に授業を受けられるように非常に配慮されていると判断します。

委員長
学校教育課長

次に、保健の教科用図書について、説明を求めます。

保健の専門員会では、全ての教科用図書について研究を進めていただき、その中で、東京書籍、光文書院、学研の3社に絞り、比較しました。

その結果、59ページの東京書籍がこの地域の子どもたちにふさわしいとされ、選定されました。

選定の理由ですが、1単位時間の内容を見開き2ページで構成していて、授業の流れがわかりやすく、課題解決の力を育てるものになっています。活動内容も一目でわかるよう工夫されています。

また、各章末に資料ページに、関連する「図表・さし絵・写真」が豊富に掲載され、学習の幅を広げています。

さらに、キャラクターの吹き出しの部分では、児童の課題解決を助け、見通しが持てるようにしています。

また、防災・安全に関わる学習活動も充実しています。

こうしたことから、東京書籍が他社より充実していると判断します。

委員長
井上委員

保健の教科用図書について、質疑はありませんか。

東京書籍の巻末のところのハンセン病とか、薬物乱用、そういう資料が非常に優れていると思います。また、それを巻末であっても授業で扱っていく方向性でやっていただけると、これが生きてくるのではないかと思います。身近な問題なので、自分の健康などを捉えて、その発展的なものとして教材を適切に扱っていただけると非常に役立つと思います。

学校教育課長

井上委員のおっしゃるとおり、巻末の活用が、教科書の魅力を十分活用する秘訣だと思います。先程、申しあげました巻末資料で、例えば、井上委員のご指摘とは、また、違った学年ですが、3、4年生の新しい保健につきましても、29ページの最後のところに、「外で遊ぶときに注意すること」といって防災のための安全指導ということで、学校で必ず指導しなければならないことが教科書に載っています。こういったところが、学校では非常に魅力を感じるころだと判断した部分です。

同じ東京書籍3、4年生の12、13ページですが、ここは、健康にいい環境という学習の章末です。この章末で学習のまとめとして、例えば、12ページ、表を自分で記録したりします。各章末で、このような学習のまとめがしっかりしてあり、自分

で学習した内容を復習して定着できる配慮がされている、それが優れていると判断します。

委員長 これにて、すべての種目について、説明及び質疑が終了しました。

【討論及び採決は非公開につき内容は省略】

委員長 本日の議事はすべて終了いたしました。
次回第8回定例会は、8月12日（火）午後1時30分開会
です。
以上で、平成26年深谷市教育委員会第2回臨時会を閉会
します。